

東海道を歩く

〈総集編〉

2018年～2019年 日本橋から箱根関所跡 全12回

道程24里(約101km)●延べ参加人数608名●最高齢80歳●完歩者7名

先達:野萩勝利・和田重幸●主催:東京23倶楽部・湘南倶楽部

担当幹事:岩月光司・尾野通男・日永広子・鷺澤典子(敬称略)

2017年大好評のうちに終了した「中山道を歩く」に引き続き、翌2018年に「東海道を歩く」がスタートしました。街道歩きの人気は高まるばかりで、参加人数は延べ608名、平均にすると1回約51名に上りました。

東海道は文字どおり海に沿った道であり、保土ヶ谷の権太坂を除けばほぼ平坦な歩きやすい道です。土地土地の歴史や文化に触れながら、所々にある松並木や沿道の季節の花になぐさめられ、先達の軽妙なお話に耳を傾け、時には唱歌を歌いながら、てくてく、てくてく歩きました。そして、最後にして最難関の箱根山越えも、足元が悪い石畳や急坂が続きましたが、そこはBOB会員の底力と頑張りでついに関所跡にゴール(いや～、昔の旅人の苦労が偲ばれます)。高齢の参加者が全員無事に“天下の険”を越えることができたのは本当に何よりでした。

ただ、雨には泣かされました。量の多少はありますが、12回のうち8回は雨が降り、第4回は豪雨のため途中中止、第9回もやはり豪雨のため当日は見合わせ急遽翌日に変更、さらに箱根山越えという最難関の第11回と第12回も共にどしゃ降りでした。

ともあれ、多くの会員の皆さんが楽しんでくださいました「東海道を歩く」、その旅立ちからゴールまでの道中記をまとめてご紹介しますので、画面上での旅をお楽しみください。



第1回 日本橋から品川

2018年3月5日(月)

新シリーズが始まりました。日本橋をスタートして箱根関所跡まで約100kmを2年間12回で踏破します。今回はその1回目です。

日本橋の道路原標前に健脚自慢の49名が集まり出発。中央通り沿いの名所旧跡をたどり、芝パークホテルで洋食ランチ。午後は降り始めた雨などものともせず、泉岳寺、品川宿本陣跡を訪れ、京急新馬場駅で解散しました。



泉岳寺にて（写真がぼやけている部分はカメラのレンズに付いた雨粒です）



日本橋の日本国道路原標



八重洲のヤンヨーステン記念碑



江戸歌舞伎発祥の地碑



増上寺と東京タワーを横目に見つつ・・・



江戸城無血開城の会談が行われた高輪の薩摩藩下屋敷跡

第2回 品川から川崎

2018年4月2日(月)

好天に恵まれ、55名が参集。快調な足取りで、品川寺、海雲寺、鮫洲八幡宮、龍馬像、鈴ヶ森刑場跡、磐井神社と進む。昼食は、明治30年創業の老舗「天仲」で自慢の天ぷらを楽しみました。午後は六郷神社や六郷の渡し跡を見学し、多摩川を越え川崎宿へと入りました。ハリスや皇女和宮も訪れたという万年屋（奈良茶飯が名物）や田中本陣跡などを確認し、JR川崎駅で解散しました。



六郷神社にて



品川の地名の由来ともなった品川寺



野萩先達の下、品川宿を歩く



20歳の頃坂本龍馬が剣術修行で江戸に出た時、この辺りに住んでいました（京急立会川駅付近の公園）



野萩先達の説明に聞き入る（六郷神社）



旧六郷橋の親柱（六郷神社）



新六郷橋を渡り川崎宿へ

第3回 川崎から東神奈川

2018年5月23日(水)

ポールウォーキング利用の5名を含め56名で川崎駅を出発。あいにくの雨の中、和田先達の元気なガイドの下、川崎宿の旧跡、鶴見橋関門旧跡、そして生麦事件発生現場と見学し、麒麟ビール横浜工場内のレストランで昼食。午後はオランダ領事館にあてられた長延寺跡などの「神奈川宿歴史の道」を歩き、東神奈川駅にて解散しました。



昼食個所の「スプリング・バレー・ブルワリー」にて



小土呂橋の親柱（川崎駅付近）



生麦事件の後外国人へ危害を加えるのを防ぐため横浜へ入る者を取り締まった鶴見橋関門旧跡



生麦事件発生現場 現在は個人のお宅



当時オランダ領事館があった長延寺跡

第4回 東神奈川から保土ヶ谷

2018年9月25日(火)

今回は総勢60名、幕末に開港した場所として当時が偲ばれる散策となりました。ヘボン式ローマ字のヘボン博士の宿舎成仏寺、イギリス領事館跡の浄瀧寺、勝海舟の指導の下に造られた神奈川台場跡、アメリカ領事館跡の本覚寺、坂本龍馬亡き後、妻のお龍さんが働いていた茶屋「田中屋」などを巡りました。横浜駅近くのキャメロットホテルにてビュッフェランチを楽しみましたが、朝からの雨が豪雨となり、やむなく昼食後に解散としました。誠に残念でしたが、次回の好天気を期待して帰途につきました。



浄瀧寺



神奈川台場跡 現在はJR貨物駅の操車場

本覚寺にて



田中屋
往時は旅籠「さくらや」を営み
浮世絵にも描かれています
←坂の上から3軒目



幕末からは料亭



お龍さん

第5回 保土ヶ谷から戸塚

2018年10月24日(水)

総勢51名、前回の豪雨とは打って変わった好天に安堵し、晴れやかな気分で出発。前半は江戸を出て最初の難所の権太坂、一同汗をかきながら上りきりました。東戸塚のオーロラシティ・フードコートで昼食をとり、国道1号沿いを、後醍醐天皇の皇子・護良親王の首洗井戸や樹齢300年のモチの大木を見学して、戸塚駅で解散しました。



権太坂を上りきって休憩した武相国境の碑にて



今も国道沿いに残る保土ヶ谷本陣跡



権太坂あれこれ



品濃一里塚 もうすぐ東戸塚



護良親王の首洗井戸



権太坂投込塚跡 難所の権太坂では多くの旅人や馬が行き倒れになりここに埋葬されました 厳しい現実がありました

第6回 戸塚から藤沢

2018年11月28日(水)

小春日和のこの日、48名で街道歩きを楽しみました。戸塚宿では、徳川家康の側室が尼となって入山した清源院や戸塚の名の由来とも言われる富塚八幡宮を訪れ、崎陽軒で昼食の中華料理を満喫。食後は一路藤沢宿へ。時宗総本山の遊行寺に参拝し、広い境内を見学。その後国際的詩人・野口米次郎（彫刻家イサム・ノグチの父）ゆかりの常光寺、飯盛女達の墓が並ぶ永勝寺を回り、小田急藤沢本町駅で解散しました。



遊行寺にて



富塚八幡宮と狛犬
子の狛犬が足元にいます



樹齢700年遊行寺の大銀杏
圧倒的な存在感です



崎陽軒

第7回 藤沢から平塚

2019年3月26日(火)

2年目の「東海道を歩く」は、総勢54名で小雨降る藤沢から始まりました。藤沢宿を出て大山道道標を過ぎ、松並木をひたすら歩くとやがて茅ヶ崎。人気店「MOKI CHI」のイタリア料理は大好評でした。午後は第六天神社、南湖の左富士、関東大震災で水田の中から出現した旧相模川橋脚などを見学。相模川に架かる全長200mの馬入橋を渡り、平塚駅に到着。ほころび始めた桜に癒やされ、シリーズ最長12kmを歩き通しました。



昼食個所「MOKI CHI」にて



大山道道標と一の鳥居



歩いた後のビールは一段と旨い！



第六天神社 御神木・黒松の大木はパワースポット



旧相模川橋脚

第8回 平塚から二宮

2019年4月23日(火)

平塚駅を55名で出発。史跡の石碑や案内板をたどって歩いていると、地元のBOB会員、飯尾さんがお出迎えくださり、その笑顔とお饅頭の差し入れに参加者一同元気百倍！続く大磯宿では、旅館大内館で昼食をいただき、新島襄終焉地、湘南発祥地の碑、旧島崎藤村邸、旧吉田茂邸庭園などを見学しました。その後は、沿道に藤やつつじの花を観ながら、ひたすら西へ歩き、二宮駅に到着しました。日本橋から74km。次は小田原へ。



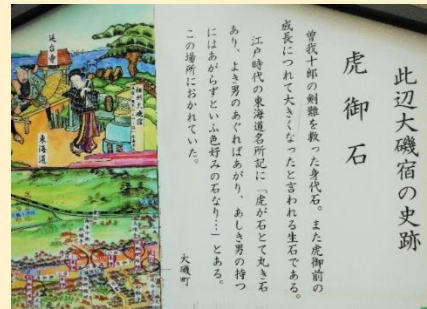
旧吉田茂邸の庭園にて



平塚の名の由来とされる平塚の塚



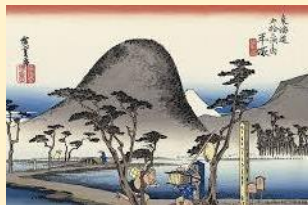
大内館の昼食



“色好みの虎御石” 色好みとは？



広重が“五拾三次之内平塚”として描いた丸い高麗山は今もそのまま



湘南発祥の地碑



大磯の松並木（下見）

第9回 二宮から小田原

2019年5月22日(水)

当初5月21日の予定でしたが、豪雨のため急遽翌22日に変更、参加者33名で実施しました。二宮では等覚院や本陣跡を訪ね、国府津へ。昭和の童謡作家海沼實は、この辺りの海を見て「みかんの花咲く丘」を作曲しました。国府津では「しゃぶ葉」でしゃぶしゃぶの昼食。午後は、酒匂川渡し跡、越前で討死した新田義貞の首が故郷へ運ばれる途中で埋められた首塚、北条氏に殺害された11歳の人質、上杉龍若丸の墓などをたどり、小田原城下へ。城下では、北条稻荷や小田原城総構の遺構を見学して、小田原駅で解散しました。今回は、急な変更のため10数名の方が参加できなくなり、残念でした。



酒匂川渡しの碑にて



国府津へ向かう道すがら「みかんの花咲く丘」をみんなで歌いました



新田義貞の首塚



小田原宿江戸口見附・一里塚
いよいよ小田原城内へ



上杉龍若丸の墓



北条稻荷



小田原城総構遺構の土塁

第10回 小田原から箱根湯本

2019年9月24日(火)

今回は総勢52名で実施。小田原駅を出発後、東海道を一時離れて小田原城周辺を見物。また、旧網問屋なりわい交流館や薬と菓子で知られる「ういろう」、中級武士の屋敷街だった西海子小路を経て東海道に戻り、大久寺や板橋地蔵尊を訪れました。風祭の「鈴廣」で昼食。午後は春日局ゆかりの紹太寺、戊辰戦争の山崎古戦場など、ススキの揺れる道をたどり、箱根湯本駅で解散しました。次回はいよいよ“天下の陰”箱根山です。



紹太寺（扁額は山岡鉄舟の筆）にて



山越えする旅人が薬を買っていきました



小田原城大手門跡



桜の名所でもある西海子小路



なりわい交流館 冷たい飲み物が美味しかった！

第11回 箱根湯本から畑宿

2019年10月29日(火)

予報どおり雨が降る中、一人の取り消しもなく44名が箱根湯本駅に集合。傘はもちろんカッパを着込んで、いざ箱根山へと向かいました。始めは緩い坂を早雲寺や正眼寺を見学しながら進みましたが、そのうち勾配も徐々に増し、雨も激しくなり、皆黙々と歩き続けました。「ホテルはつはな」に着く頃にはびっしょり濡れ、ホテルが用意してくれた乾いたタオルがありがたかったこと！ 食事も美味でした。午後にも女転しの急坂を過ぎ、台風で橋が壊れた石畳を迂回して車道をひたすら上り、ようやく畑宿に到着しました。

次回はついに最終回です。どうか晴れんことを！



昼食個所の「ホテルはつはな」にて

早雲寺 北条早雲をはじめ北条5代の墓があります



早雲寺本堂の枯山水石庭



畑宿一里塚



畑宿の町並

第12回 畑宿から箱根関所跡

2019年11月26日(火)

皆の願いもむなしく、またしても雨。それでも、雨支度をし、参加者47名は最後にして最難関の山越えに出発しました。畑宿からは初っ端から石畳の急坂や七曲り道、幾重もの石段が続き、「箱根八里」を歌い奮起するも坂また坂でヘトヘト。雨と汗にまみれ「甘酒茶屋」に到着。その後も石畳をひたすら上り、ようやく昼過ぎに、馬子唄の碑がある峠にたどり着きました。あとは芦ノ湖まで下り、杉並木を抜け、ついに箱根関所跡にゴール。やりましたあ！ 本陣跡の箱根ホテルで、ゆっくりビュッフェランチを楽しみました。ご参加の皆様、野萩・和田両先達、ご支援いただきました皆様様に深く感謝申し上げます。



ゴールの箱根関所跡にて



甘酒茶屋へ向かう
和田先達と尾野さん（下見）



石畳の道が続く（下見）

箱根八里

作詞：鳥居 枕
作曲：瀧 廉太郎

箱根の山は天下の険
函谷関も物ならず
万丈の山 千仞の谷
前に^{そび}え ^{しりえ}後に^{さそ}支う
雲は山を巡り 霧は谷を閉ざす
屋なお聞き 杉の並木
羊腸^{ようちよう}の小径^{しょうけい}は 苔滑らか
一夫関に当たるや万夫も開くなし
天下に旅する剛毅^{ものごつ}の武士
大刀を腰に足駄がけ
八里の岩根ふみ鳴らす
かくこそありしか 往時の武士

「東海道を歩く」総集編に最後までお付き合いいただき、ありがとうございました。

完